

図書館機構による学術情報リテラシー教育支援のためのルートマップ

2020.08.05

Ver.1

<p>レベル 行動指標</p>	<p>基礎 レポート・論文を作成する際に、 京都大学で利用できるツールを把握している。</p>	<p>初級 与えられたテーマ・情報源をもとに レポートを作成できる</p>	<p>中級 与えられた課題について自らテーマを設定し、 先行事例を踏まえた上で自らの意見を 含んだレポートの作成・発表ができる</p>	<p>上級 自ら調査・研究テーマを設定し、学術的な 論文の作成・発表ができる</p>	<p>研究での実践 研究の現場において、情報を効果的に活用できる</p>
<p>主な対象</p>	<p>学部1回生</p>	<p>学部1,2回生</p>	<p>学部2,3,4回生</p>	<p>学部4回生、大学院修士課程</p>	<p>大学院生以上</p>
<p>1. 情報探索計画を立てる 大学という場での、学習・研究にふさわしい情報の探索を計画する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 学内の図書館を適切に利用できる。 <input type="checkbox"/> 京都大学が提供している電子ブック・電子ジャーナル・データベースの存在を把握している。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞、視聴覚メディア・インターネット等、情報・メディアの種類や特性を説明できる。 <input type="checkbox"/> 貸出・予約・レファレンスサービス等、文献入手に関わる図書館サービスを利用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 調査テーマに関する先行研究の検索を行うことができる。 <input type="checkbox"/> 課題の解決に適した信頼性の高い情報源を推測できる。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自身の専門分野において、どのような学術情報が、どのタイミングどの媒体で発表されるのかを把握している。 <input type="checkbox"/> 情報探索計画の実施においてプロセスを把握できる。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 遺漏の無い徹底した先行研究の検索ができる。 <input type="checkbox"/> 自身の専門分野以外においても、自分の研究テーマに関係がある先行研究を幅広く検索ができる。
<p>2. 情報を的確に入手する 探索計画に基づき、必要な情報を適切・効率的に入手する</p>		<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 図書館の蔵書検索ツールを利用し、指定された資料を検索できる。 <input type="checkbox"/> 参考・引用文献リストを適切に読み取り、調査に活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 課題に応じて適切なメディア(図書・雑誌・新聞・視聴覚メディア・インターネット・人的情報源)を選択できる。 <input type="checkbox"/> 文献検索の検索語(同意語・上位語・下位語)を工夫し、演算子(AND・OR・NOT)を利用し、データベースを検索できる。 <input type="checkbox"/> 自身の研究テーマに合致した、適切なデータベースを選択することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 望ましい情報が得られなかった場合、行った検索プロセスを評価し、データベース・検索式・キーワードなどを見直すことができる。 <input type="checkbox"/> 他機関の図書館から文献を取り寄せるなど、図書館のサービスを必要に応じて利用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 情報の所在とアクセス方法を理解し、必要に応じて、国内外の図書館・官公庁・NPOなどから情報を入手できる。
<p>3. 情報を評価し、整理して管理する 収集した情報を活用する前に批判的に分析し、整理・管理する</p>		<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 学術的な文章の要旨をまとめることができる。 <input type="checkbox"/> 情報を取捨選択し、活用できるように整理できる。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 入手した情報の正確性と、調査テーマとの関連性を評価できる。 <input type="checkbox"/> 資料リストを作成し、管理できる。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 批判的思考をもとに、入手した情報の論理性・合理性・正確性・関連性を評価・分析できる。 <input type="checkbox"/> 文献管理ツールを使用して、収集した文献情報を活用できるように整理できる。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> インパクトファクター等の評価指標の特性を理解し、情報の評価に活用できる。 <input type="checkbox"/> 学会誌の書評などを参照し、新しい研究成果を適切に評価できる。
<p>4. 情報を適正に活用・発信する 研究倫理に留意し、また適切な構成でレポート・論文を書く</p>		<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 一般的な体裁に則ってレポートが書ける。 <input type="checkbox"/> 引用と剽窃の違いが説明でき、適切に引用できる。 <input type="checkbox"/> 参考・引用文献リストを作成できる。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 事実に基づき、理論的な根拠を示しながら、問題提起に対応した主張を論理的に述べることができる。 <input type="checkbox"/> 図表・音声・画像を適切に活用できる。 <input type="checkbox"/> 知的財産権・著作権・個人情報保護等の情報倫理に配慮できる。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 情報を活用するプロセスや明瞭性・正確性を把握できる。 <input type="checkbox"/> 学術論文の構成に沿った文章を記述できる。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 論文を投稿する際に最適なジャーナルが選定できる。 <input type="checkbox"/> ジャーナルの規定や査読者への対応を十分に理解した上で投稿する。 <input type="checkbox"/> 研究成果をどのような形で発表するのが最も効果的なのか、戦略を立てることができる。 <input type="checkbox"/> オープンアクセスの意義とメリットを説明できる。 <input type="checkbox"/> 学術研究において求められる倫理的配慮を留意できる。